第2章

調査結果の概要

平成２９年度から令和４年度の６年間の「教科に関する調査」の結果から、県全体の「学力の伸び」の状況についての分析や、今後の対応策等について掲載しました。

また、参考資料として、児童生徒質問紙の項目変更、学習方略や非認知能力の質問項目について掲載しています。

１「学力の伸び」の状況（平成２９年度～令和４年度）

埼玉県学力・学習状況調査の実施は、今回で８回目となりました。今年度の結果から「学力の伸び」の状況やその結果の傾向と対応策をお伝えします。

（１）　「学力のレベル」の経年変化について（平成２９年度から令和４年度の６年間）

○　どの学年も過去の同学年と同等のレベルに達している。

○　ほぼ全ての学年・教科で、学年が上がるごとに着実な「学力の伸び」が見られる。

国語

学年	小４	小５	小６	中１	中２	中３
現中３	16	18	20	22	23	25
現中２	16	17	20	22	23	
現中１	15	18	20	22		
現小６	17	18	21			
現小５	18	18				
現小４	16					

縦に見ることで、どの学年もほぼ同様のレベルに達していることが分かる。

算数・数学

学年	小４	小５	小６	中１	中２	中３
現中３	14	16	18	20	22	24
現中２	14	17	18	20	22	
現中１	14	16	19	20		
現小６	14	17	18			
現小５	15	16				
現小４	14					

横に見ることで、毎年度どの学年も着実に学力が伸びていることが分かる。

英語

学年	中２	中３
現中３	26	29
現中２	26	
現中１		
現小６		
現小５		
現小４		

※各学年の学力のレベルは下記の範囲内【３６段階（１２レベル×３層）】で設定

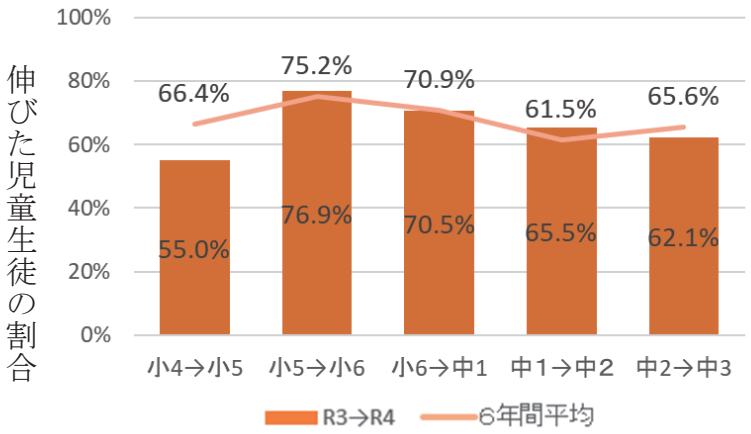
小学校第４学年	小学校第５学年	小学校第６学年	中学校第１学年	中学校第２学年	中学校第３学年
１～２１	４～２４	７～２７	１０～３０	１３～３３	１６～３６

（２）　学力が伸びた児童生徒の割合

〔国語〕

○　約６～８割の児童生徒の学力が伸びている。

○　過去６年間の平均と比べて、中学校第２学年の学力が伸びた生徒の割合は多い。一方、小学校第５学年の学力が伸びた生徒の割合は少なくなっている。



※数値の見方

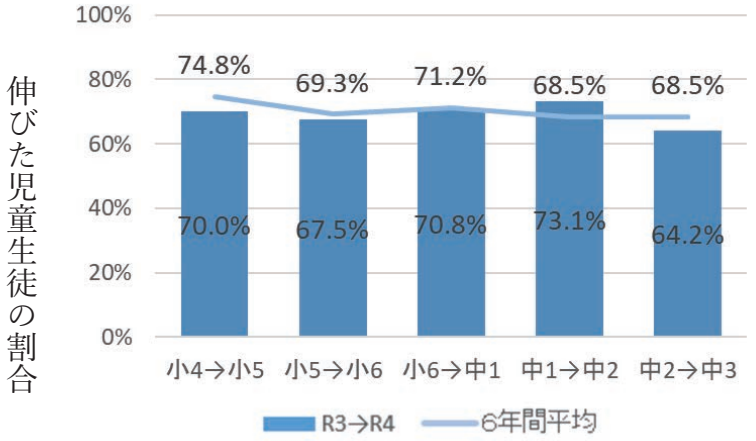
これらのグラフ及びデータは、前年度と比べて「学力の伸び」が見られた児童生徒数の受検者数全体に対する割合です。教科ごとに「学力の伸び」が見られた（各学校に送付した帳票 01「教科に関する調査　採点結果」にある「昨年度からの学力の伸び」の値が１以上であった）児童生徒数を、受検者数で割った値です。

いわゆる「伸び率」（全ての児童または生徒の「学力の伸び」の値を足し合わせて、受検者数で割った値）ではないことに注意してください。

〔算数・数学集計結果〕

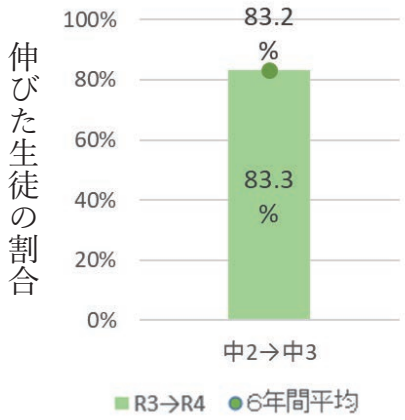
○　約６、７割の児童生徒の学力が伸びている。

○　過去６年間の平均と比べて、中学校第２学年の伸びた生徒の割合は多い。一方、中学校第３学年の学力が伸びた生徒の割合は少なくなっている。



〔英語集計結果〕

○　過去６年間の平均と同様に、約８割の生徒の学力が伸びている。



対応策

【よい取組の共有】

児童生徒一人一人のつまずきを早期に発見・支援するとともに、学力を大きく伸ばした（学力を伸ばした児童生徒の割合が多い、学力の伸び率が高い）学年や学級を把握し、担当者からの聞き取りや授業参観を行うなど、効果的な取組や工夫を、学校全体で共有し実践する。

【主体的・対話的で深い学びの実現】

本調査のデータ分析結果を踏まえ、質問調査結果における児童生徒の主体的・対話的で深い学びに係る意識や学習方略・非認知能力等の状況を把握した上で、主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業の工夫・改善を進める。

【学級経営の充実】

学習規律が定着し、児童生徒同士のトラブルが少ないなど、落ち着いた学級づくりを目指すとともに、保護者や地域の方々が学校の諸活動に積極的に参加できる学校づくりを実践する。

【小中連携の推進】

中学校区内の小・中学校で、接続期における学習内容の変化に対する児童生徒一人一人への手立てを話し合うなど、小中連携を一層推進していく。

教科別授業改善の視点

国語科

【今年度の調査から見られた課題（傾向）】

○小学校では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が高い傾向にあるが、小4は「書くこと」において、小5・小6は「読むこと」において課題が見られた。

○中学校では、「我が国の言語文化に関する事項」の正答率が高い傾向にあるが、中1・中2は「話すこと・聞くこと」において、中3は「読むこと」において課題が見られた。

【主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の視点】

○単元の目標を明確にした授業づくり

どのような言語能力を身に付けさせるかを明確にし、児童生徒が学習に見通しをもち、自らの学習を調整しながら主体的に学習に取り組むことができるようにしましょう。

○目的・場面・状況設定を大切にした言語活動

言語能力を育成する中心的な役割を担う国語科として、各学年の学習の系統性、他教科との関連、実生活とのつながりを意識した言語活動を設定しましょう。

○既習事項を活用する場面の設定

児童生徒が、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高められるようにしましょう。

○変容を実感させる振り返りの充実

子供自身が考えの変容を確認したり、新たな問いや疑問をもったりすることができるように、学習した過程や学習内容がどのように活用できるかを振り返る時間を確保しましょう。

算数・数学科

【今年度の調査から見られた課題（傾向）】

○小学校の「データの活用」領域では、表やグラフを読み取ることは概ね正答率が高い傾向にあるが、グラフの特徴を読み取ることや資料の分類整理、目的に応じたデータの表し方の理解に課題が見られた。

○中学校の「数と式」の正答率が高い傾向にあるが、「図形」では対称な図形の性質について、「関数」ではグラフから２つの直線の式や交点の座標を求めることについて、課題が見られた。

【主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の視点】

○単元の目標を明確にした授業づくり

学習する目的を児童生徒に意識させたり、新たな問いを見いださせたり、既習事項との相違に着目させるなどして学習のねらいに迫る課題を児童生徒が設定できるようし、粘り強く取り組ませ、「主体的な学び」を実現しましょう。

○目的・場面・状況設定を大切にした言語活動

本時のねらいに迫る発問や適切な切り返しを通して、児童生徒一人一人が自己との対話や他者との考えを比較検討するなどして、考えを広げ深める「対話的な学び」を実現しましょう。

○既習事項を活用する場面の設定

児童生徒が数学的な見方・考え方を働かせ、既習事項との共通点などを見いだすことにより、統合的・発展的に思考するなど「深い学び」を実現しましょう。

○変容を実感させる振り返りの充実

数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動により、数学的に問題発見・解決する過程や結果を振り返らせ、思考や態度の変容を気付かせて価値付け、より質の高い「深い学び」を実現させましょう。

英語科

【今年度の調査から見られた課題（傾向）】

○中２・中３ともに、聞いて把握した内容について、適切に応じる問題に無解答率が高い傾向にあり、課題が見られた。また、与えられた情報に基づいて、メッセージを正確に書くことについても課題が見られた。

○文法事項としては、前置詞、疑問詞、頻度を表す副詞などの活用に課題が見られた

【主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の視点】

○単元の目標を明確にした授業づくり

生徒に学習の見通しや活動への目的意識を持たせ、主体的に学習に取り組ませるために、単元全体のゴールの姿、身に付けさせたい力を明確にした「単元目標」と、それを達成するために１つ１つの授業でできるようになること（＝学習のめあて）を生徒に明確に提示しましょう。

○目的・場面・状況を具体的に設定した言語活動

生徒が英語で自分の考えや気持ちなどを伝え合ったり、場面や状況に応じて相手意識を持って適切な表現をしたりすることができるようになるために、英語を使う具体的な目的・場面・状況を設定した言語活動を積み重ねましょう。また言語活動では生徒の良さや課題を共有する中間指導（活動の間に行う指導）を取り入れましょう。

○既習事項を活用する場面の設定

学習内容を定着させるために、既習事項を活用して先生と生徒がやり取りを行ったり、使用する言語材料を縛らずに、自由に既習表現を活用したりする言語活動を設定しましょう。生徒の使った表現を紹介し広めたり、英語で何と言ったら分からないという言葉を指導・共有したりする中間指導（活動の間に行う指導）も取り入れましょう。

○変容を実感させる振り返りの充実

生徒が授業を通してできるようになったことを実感できるように、生徒が行った言語活動に対するフィードバックや学んだことを整理する「まとめ」、生徒が振り返りを行う場面をつくりましょう。

＜各市町村教育委員会・学校における効果的な取組例＞

【授業改善】

○　「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、市町村独自の授業のスタンダード（１時間の授業の流れ等）を作成、配布　**⇒教員の指導力の向上、若手教員等の授業改善の指針**

○　小学校において、専門性の高い教員が学年を越えてその教科の指導を実施
⇒学びの質の向上、系統性をより重視した指導

○　各学校で実施される授業研究会を他の学校の教員でも参加できるよう、市町村全体で授業改善に向けての研修の促進　**⇒学校間交流の活性化、教員が相互に学び合える環境の構築**

【家庭と連携した学習支援】

○　家庭学習の手引等を作成し、質的・量的の両面から家庭学習を充実　**⇒子供の学ぶ環境づくり**

【各市町村教育委員会による各学校への指導・助言】

○　各市町村教育委員会が各学校へ訪問、県学力・学習状況調査の結果分析をきめ細かくサポート

○　学力を伸ばしている教員の良い取組を、会議などで積極的に紹介・共有・実施
⇒教員の経験と調査結果に基づく指導、多面的な見方による指導

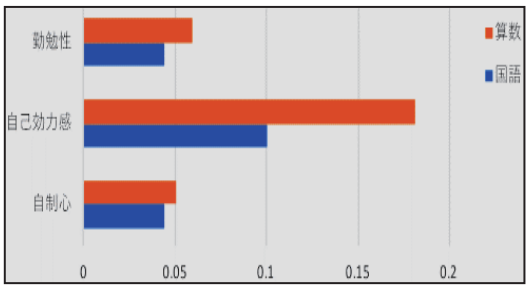
※　これらの取組は一例です。この取組例を参考に、各市町村教育委員会・学校の実情に合わせた工夫・改善を行い、児童生徒一人一人に応じた指導の充実を図るようお願いいたします。

2　参考資料

①児童生徒質問紙の項目変更について

⑴　自己効力感について

○令和4年度から、学力との関係でより強い正の相関関係が明らかになっている自己効力感を全学年で調査するように変更しました。
○県学調で調査している自己効力感とは、自分がそれを実行できるという期待や自信のことです。
○学力の向上につながりのある非認知能力について「自己効力感と学年固有の項目」を確認できるように、自己効力感を調査していた小5・中2には、「向社会性（相手の気持ちを考えるなど）」を加えております。



非認知能力と学力は正の相関関係（特に自己効力感）
（平成28年度データ活用事業分析報告書 P35 から）

⑵　「放課後の時間の過ごし方」について

○「家での生活」についての質問項目を「放課後の時間の過ごし方」に変更しました。
○回答状況から、児童生徒一人一人の生活や学習で抱えている課題（兄弟の世話・家族の介護をしている時間が長い、食事をしていない、宿題に取り組んでいない、寝る時間が極端に遅いなど）が明らかになることがあります。
○学年の回答状況（帳票１０）だけでなく、気になる項目については、児童生徒一人一人の回答状況（帳票０１）を確認することで、個に応じた指導に役立てることも可能です。

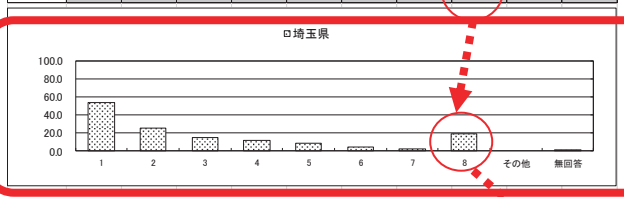
【「放課後の時間の過ごし方」に関して質問している項目】

- 塾や家庭教師などの学習の習い事をしていた
- 家のお手伝いをしていた
- 外で遊んでいた
- テレビ（インターネット動画を含む）を見ていた
- 宿題や予習・復習など，一人で勉強していた
- お風呂に入っていた
- 音楽やスポーツなどの学習以外の習い事をしていた
- きょうだいの世話・家族の介護をしていた
- ゲームをしていた
- SNS で友達や家族とコミュニケーションを図っていた
- 食事をしていた
- 寝ていた

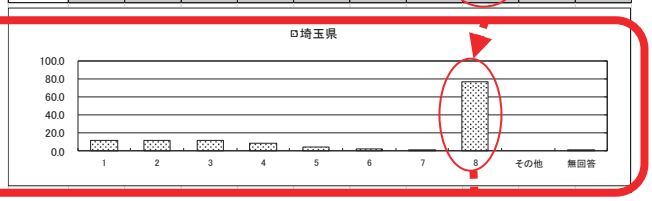
【帳票で確認する場合】

帳票１０（それぞれの質問項目ごとにグラフ化されている）

(61)	平日（月～金）のある1日の放課後の時間の過ごし方について，ア～シのそれぞれについて，次のことは何時ごろにしていましたか（当てはまる時こくをすべて選んでください）									
ウ	宿題や予習・復習など，一人で勉強していた									
選択肢	1. 17時～18時　2. 18時～19時　3. 19時～20時　4. 20時～21時　5. 21時～22時　6. 22時～23時　7. 23時いこう　8. していない									
	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
埼玉県	53.4	25.6	14.7	11.5	8.4	4.4	2.4	18.5	0.0	0.4



(61)	平日（月～金）のある1日の放課後の時間の過ごし方について，ア～シのそれぞれについて，次のことは何時ごろにしていましたか（当てはまる時こくをすべて選んでください）									
ケ	兄弟姉妹の世話・家族のかい護をしていた									
選択肢	1. 17時～18時　2. 18時～19時　3. 19時～20時　4. 20時～21時　5. 21時～22時　6. 22時～23時　7. 23時いこう　8. していない									
	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
埼玉県	11.4	11.7	11.3	8.2	4.6	1.8	0.9	76.2	0.0	0.8



児童生徒の回答状況を確認することで、
児童生徒理解に役立てることが可能です。

帳票０１

（児童生徒一人一人の
質問調査の回答した
選択肢が一覧になっている）

家庭学習に全く取り組んでいないような状況はありませんか。１日当たりの SNS や動画視聴の時間が長すぎませんか。等

01　学校用

令和4年度埼玉県学力・学習状況調査（小学校6年生）
児童質問紙調査　回答結果
○○市立○○小学校

学年	組	出席番号	個人番号	質問番号（回答された選択肢の番号）											
				61ア	61イ	61ウ	61エ	61オ	61カ	61キ	61ク	61ケ	61コ	61サ	61シ
6	1	34	0000000	6	1	6	2	1,2,7	6	1	6	2	1,2,7	6	1
6	1	2	0000001	8	7	6	1	2	8	7	6	1	2	8	7
6	1	10	0000002	8	6	1,6,7	5	6	8	6	1,6,7	5	8	8	6
6	1	7	0000003	8	1,6,7	6	5	7	8	1,6,7	6	5	7	8	1,6,7
6	1	12	0000004	8	1	8	1	2	8	1	8	1	2	8	1
6	1	18	0000005	4	1,7	8	3	7	4	1,7	6	3	7	4	1,7
6	1	20	0000006	6	1,7	8	7	2,7	6	1,7	8	7	2,7	6	1,7

②学習方略や非認知能力の質問項目

項　目	説　明
学習方略	子供が学習効果を高めるために意図的に行う活動（学習方法や態度）であり、次の①～⑤に分類される。

① **柔軟的方略**　…　自分の状況に合わせて学習方法を柔軟に変更していく活動
（例）勉強の順番を変えたり、分からないところを重点的に学習したりする　など
② **プランニング方略**　…　計画的に学習に取り組む活動
（例）勉強を始める前に計画を立てる　など
③ **作業方略**　…　ノートに書く、声に出すといった、「作業」を中心に学習を進める活動
（例）大切なところを繰り返し書く　など
④ **認知的方略**　…　より自分の理解度を深めるような学習活動
（例）勉強した内容を自分の言葉で理解する　など
⑤ **努力調整方略**　…　「苦手」などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動
（例）分からないところも諦めずに継続して学習する　など

【児童生徒質問紙の項目】

柔軟的方略	勉強のやり方が、自分にあっているかどうかを考えながら勉強する 勉強でわからなところがあったら、勉強のやり方をいろいろ変えてみる 勉強しているときに、やった内容をおぼえているかどうかをたしかめる 勉強する前に、これから何を勉強しなければならないかについて考える
プランニング方略	勉強するときは、さいしょに計画をたててからはじめる 勉強をしているときに、やっていることが正しくできているかどうかをたしかめる 勉強するときは、自分できめた計画にそっておこなう 勉強しているとき、たまに止まって、一度やったところを見なおす
作業方略	勉強するときは、参考書や事典などがすぐ使えるように準備しておく 勉強する前に、勉強に必要な本などを用意してから勉強するようにしている 勉強していて大切だと思ったところは、言われなくてもノートにまとめる 勉強で大切なところは、くり返して書いたりしておぼえる
認知的方略	勉強するときは、内容を頭に思い浮かべながら考える 勉強をするときは、内容を自分の知っている言葉で理解するようにする 勉強していてわからないことがあったら、先生にきく 新しいことを勉強するとき、今までに勉強したことと関係があるかどうかを考えながら勉強する
努力調整方略	学校の勉強をしているとき、とてもめんどうでつまらないと思うことがよくあるので、やろうとしていたことを終える前にやめてしまう いまやっていることが気に入らなかったとしても、学校の勉強でよい成績をとるためにいっしょうけんめいがんばる 授業の内容がむずかしいときは、やらずにあきらめるか簡単なところだけ勉強する 問題が退屈でつまらないときでも、それが終わるまでなんとかやりつづけられるように努力する

出典：心理測定尺度集Ⅳ：子どもの発達を支える〈対人関係・適応〉,(2007).,心理測定尺度集/堀洋道監修.サイエンス社

項　目	説　明
非認知能力	テストで計測される学力やＩＱなどとは違い、自分の感情をコントロールして行動する力があるなど性格的な特徴のようなものであり、本調査では次の５種類について質問を行っている。

① **自己効力感**　…　自分はそれが実行できるという期待や自信
（例）難しい問題でも自分ならできると考えられる　など

【児童生徒質問紙の項目】	**令和４年度の全学年に質問**
自己効力感	授業ではよい評価をもらえるだろうと信じている 教科書の中で一番難しい問題も理解できると思う 授業で教えてもらった基本的なことは理解できたと思う 先生が出した一番難しい問題も理解できると思う 学校の宿題や試験でよい成績をとることができると思う 学校でよい成績をとることができるだろうと思う 授業で教えてもらったことは使いこなせると思う 授業の難しさ，先生のこと，自分の実力のことなどを考えれば，自分はこの授業でよくやっているほうだと思う

出典：
P. Pintrich, et al.(1991)
A Manual for the Use of the Motivated Strategies for Learning Questionnaire(MSLQ)

②　自制心　…　自分の意思で感情や欲望をコントロールすることができる力

（例）イライラしていても人に八つ当たりしない　など

【児童生徒質問紙の項目】　令和４年度の中学１年生に質問

自制心

授業で必要なものを忘れた
他の子たちが話をしているときに，その子たちのじゃまをした
何か乱暴なことを言った
机・ロッカー・部屋が散らかっていたので，必要なものを見つけることができなかった
家や学校で頭にきて人やものにあたった
先生が，自分に対して言っていたことを思い出すことができなかった
きちんと話を聞かないといけないときにぼんやりしていた
イライラしているときに，先生や家の人（兄弟姉妹を除きます）に口答えをした

出典：
Tsukayama,E., Duckworth, A. L., & Kim, B.(2013). Domain-specific impulsivity in school-age children. Developmental Science, 16, 879-893.

③　勤勉性　…　やるべきことをきちんとやることができる力

（例）宿題が出されたらきちんと終わらせる　など

【児童生徒質問紙の項目】　令和４年度の小学６年生に質問

勤勉性

うっかりまちがえたりミスしたりしないように，やるべきことをやります
ものごとは楽しみながらがんばってやります
自分がやるべきことにはきちんと関わります
授業中は自分がやっていることに集中します
宿題が終わったとき，ちゃんとできたかどうか何度も確認をします
ルールや順番は守ります
だれかと約束をしたら，それを守ります
自分の部屋や机の周りはちらかっています
何かを始めたら，絶対終わらせなければいけません
学校で使うものはきちんと整理しておくほうです
宿題を終わらせてから，遊びます
気が散ってしまうことはあまりありません
やらないといけないことはきちんとやります

出典：
Barbaranelli, C., Caprara, G. V., Rabasca, A., & Pastorelli, C.(2003). A questionnaire for measuring the Big Five in late childhood. Personality and Individual Differences. 34(4). 645-664.

④　やりぬく力　…　自分の目標に向かって粘り強く情熱をもって成し遂げられる力

（例）失敗を乗り越えられる　など

【児童生徒質問紙の項目】　令和４年度の小学４年生、中学３年生に質問

やりぬく力

大きなか題をやりとげるために，しっぱいをのりこえてきました
新しい考えや計画を思いつくと，前のことからは気がそれてしまうことがあります
きょう味をもっていることやかん心のあることは，毎年かわります
しっぱいしても，やる気がなくなってしまうことはありません
少しの間，ある考えや計画のことで頭がいっぱいになっても，しばらくするとあきてしまいます
何事にもよくがんばるほうです
いったん目ひょうを決めてから，その後べつの目ひょうにかえることがよくあります
終わるまでに何か月もかかるようなことに集中しつづけることができません
始めたことは何でもさい後まで終わらせます
何年もかかるような目ひょうをやりとげてきました
数か月ごとに，新しいことにきょう味を持ちます
まじめにコツコツとやるタイプです

出典：
Duckworth, A. L., Peterson, C., Matthews, M, D., & Kelly, D. R.(2007).Grit: Perseverance and passion for long-term goals. Journal of Personality and Social Psychology, 92(6), 1087-1101.

⑤　向社会性　…　外的な報酬を期待することなしに、他人や他の人々の集団を助けようとしたり、人々のためになることをしようとしたりする力

（例）相手の気持ちを考える、親切にする　など

【児童生徒質問紙の項目】　令和４年度の小学５年生、中学２年生に質問

向社会性

私は，誰に対しても親切にしようとしている　　私は，その人の気持ちをよく考える
私は，他の子たちと本や遊び道具などを共有する
私は，誰かが心を痛めていたり，落ち込んでいたり，嫌な思いをしているときなど，進んで助ける
私は，年下の子たちに対して，優しくしている
私は，自分から進んで親・先生・友達のお手伝いをする

出典：
Goodman R (1997) The Strengths and Difficulties Questionnaire: A Research Note. Journal of Child Psychology and Psychiatry, 38, 581-586.
Goodman R, Meltzer H, Bailey V (1998) The Strengths and Difficulties Questionnaire: A pilot study on the validity of the self-report version. European Child and Adolescent Psychiatry, 7, 125-130.